

歴史公文書探究サイト『ぶん蔵』による歴史公文書の紹介 —ぶん蔵博士たちが案内する歴史公文書の世界—

塩 満 正 哉

高田雄太 小林繁子 森田健嗣

1 サイト制作の経緯

独立行政法人国立公文書館が発足した平成13年度から16年度までを実施期間とした国立公文書館中期計画において、「国の保存利用機関が保存する歴史公文書等の情報化の現況についての調査及び所在源情報の収集を行うとともに、当該機関との間での歴史公文書等の情報ネットワーク確立のための調査研究を行う」こととしており、平成13年度から「歴史公文書等所在情報ネットワーク検討連絡会議」を発足させたほか、平成14年度からは、立法府や司法府を含む国の公文書等の保存利用機関及び類縁機関についてアンケートやヒアリング調査を実施し、その結果を踏まえ、上記会議のメンバーの拡充や当館における歴史公文書等の所在情報のホームページのリンク化等必要な措置を講じてきたところである。

また、平成17年度から21年度までを実施期間とした同計画においても、「利用者の利便性を図るため、保存利用機関等が保持する歴史公文書等の所在情報を一体的に提供することを目的として、これら機関との連携をさらに推進し、所在情報の共有化を図るとともに、可能なところから、利用者の利便性向上のための所在情報の提供に努める」こととしている。当館では、これを踏まえ、上記会議などの場で情報の提供方法等を検討した結果、当館のホームページ上で、国の保存利用機関の所在情報の提供や主要な所蔵資料の紹介ができるよう作業を進め、平成17年度末、館及び宮内庁書陵部、防衛省防衛研究所図書館、外務省外交史料館、国立国会図書館の5機関が保持する歴史公文書の所在情報の提供及び主要な所蔵資料の紹介を行う歴史公文書探求サイト「ぶん蔵」の制作に着手し、平成18年7月、各館の協力のもと、当該サイトを一般公開した。

(注) 当館を除く、歴史公文書等所在情報ネットワーク検討連絡会議のメンバー（オブザーバーを含む）

宮内庁書陵部、防衛省防衛研究所図書館、外務省外交史料館、国立国会図書館
衆議院憲政記念館、最高裁判所事務総局

2 サイトの趣旨

「ぶん蔵」は、一般に馴染みの少ない数々の歴史公文書を「ぶん蔵博士」を始めとするキャラクターの対話などを通じて、楽しく分かりやすく紹介していく実験サイトとして発足した。紹介される歴史公文書は、上記5機関が所蔵する資料の中から、国民の皆様が楽しんでご覧いただけるようなものを選定した。この「ぶん蔵」によって、多くの方々、特に中学生や高校生に歴史公文書に触れる喜びを味わっていただきたいと考えた。

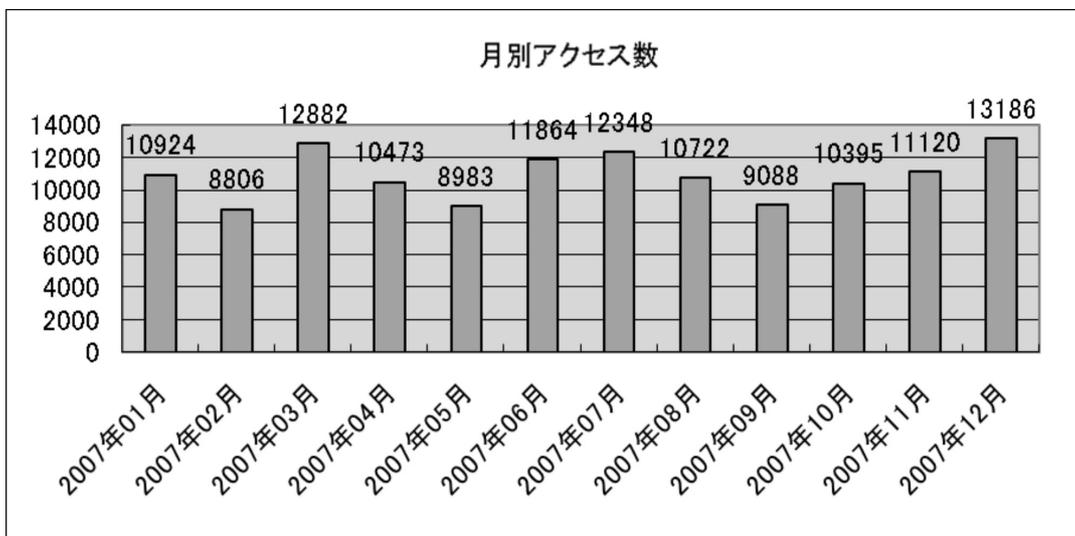
どの層をターゲットとするかは、歴史公文書等所在情報ネットワーク検討連絡会議のメンバー、館内の職員、制作スタッフ（専門調査員）の間でいろいろと議論したが、これまでの当館サイトで対象とされていない若年層を中心とすることでキャラクターの設定、採り上げる公文書の内容など

の諸作業を進めていくこととした。

3 サイトの内容

本サイトでは、東京オリンピックや鉄道に関する資料、テレビなどで取り上げられた所蔵資料など、歴史公文書の紹介を行うこととしているほか、各所蔵機関の紹介、さらに、国内だけでなく海外の公文書館へのリンク集などから構成されている。また、キャラクターとして登場するぶん蔵博士達が歴史公文書の世界を紹介するストーリーとなっている（具体的紹介は4で行う）。

「ぶん蔵」の存在については、全国の都道府県等の公文書館長会議、有識者会議、日本歴史学協会国立公文書館特別委員会との懇談会などの場のほか、折に触れて、外部に紹介しており、また、国立国会図書館などでも関連雑誌などを通じて、PRを行っており、アクセス数増加にもつながっている。



4 ぶん蔵博士たちが案内する歴史公文書の世界 <http://bunzo.jp/>



「ぶん蔵」はそれぞれ4つのキャラクターの会話形式で展開する。好奇心旺盛な女子高校生くららが日常の出来事と歴史的公文書とのつながりを発見し、ぶん蔵博士は長年公文書を研究しているという設定で彼女の指南役となる。またロボットのアルチーボ（スペイン語で「文書館」の意）は文書の年代・数値的なデータを紹介し、博士を補佐する。オコジョのモジョジョはくららと一緒に素朴な疑問を

博士にぶつかけながら、さまざまな公文書を通じて歴史を学んでいくという構成をとっている。歴史公文書や公文書館について、利用者の皆様にキャラクターと一緒に楽しく学んでいただきたい、と考えた。

以下、コンテンツの具体例として、「公文書館、あれこれ」、「ぶん蔵のクイズ部屋」、及び「モジョ・カフェ」の各コーナーから、いくつかを紹介する。

所蔵機関資料の紹介 (ヤマト、双六など)

「公文書館、あれこれ」のコーナーでは、それぞれの協力機関ごとにテーマを設定し、各機関が所蔵している興味深い資料を、歴史公文書を中心に紹介していく。当コーナーは、年に一度の更新を目標としている。昨年度は、宮内庁書陵部、外務省外交史料館、国立国会図書館憲政資料室、防衛省防衛研究所図書館、以上4機関の資料を紹介した。

外務省外交史料館に関しては、くららにドイツの友達からエアメールが届くという状況を設定し、「ハプスブルク家からの親書 (1871年)」などの美しい意匠をもった歴史公文書を紹介した。(写真)。

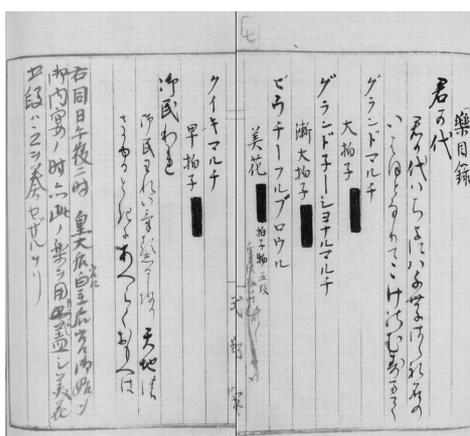


ハプスブルク家からの親書 (1871年)

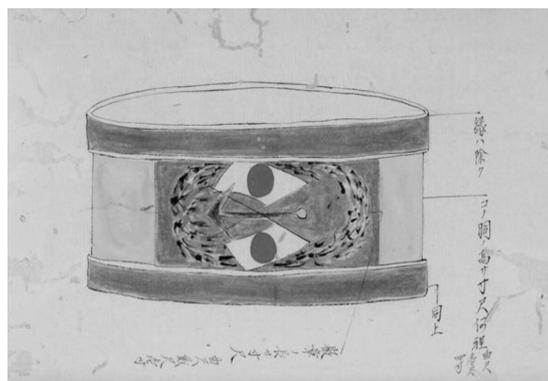


ローマ法王からの大使信任状 (1923年)

宮内庁書陵部に関しては、当館所蔵の『欧州吹奏楽曲目録 明治』内の「欧州吹奏楽曲名及番号記」を紹介することで、宮内庁式部職楽部 (雅楽・洋楽を担当する) が、すでに明治時代において西洋音楽も習得していたという事実に着目し、ストーリー展開に意外性をもたせた。また、各ポイントにおいて、くららとモジョジョに的を射た質問をさせることによって、内容に興行きと幅をもたせ、単なる資料の羅列的な紹介にとどまらず、一步踏み込んだ楽しめるコンテンツになるようつとめた。



「欧州楽御用ノ儀上申並役割人名」
『儀式録 明治9年』



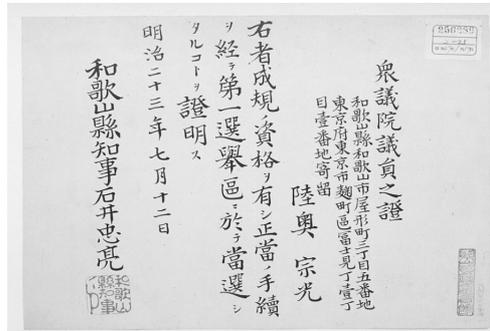
「楽師長以下ノ袖章、襟章及徽章変換ノ件」
『欧州楽録 明治16年～明治28年』

国立国会図書館憲政資料室に関しては、「議会へGO!」と題し、第一回帝国議会開設から間もない明治25年に発売された当館所蔵の「国会議員双六」を紹介した。この資料はコンテンツの内容にアクセントをつけるためには欠かせないものであったが、厳密に言えば、歴史公文書ではない。

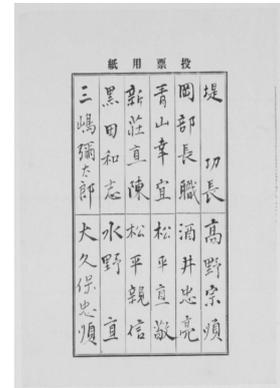
そこで、案を練り直し、他の歴史公文書と組み合わせて紹介する、ということで意見が一致した。具体的には、当館が所蔵する「陸奥宗光関係文書」内の「陸奥宗光の衆議院議員証」と「土岐章関係文書」内の「貴族院議員の投票用紙」を紹介することで、「双六」の説明に奥行きをもたせる工夫をした。



『国会議員双六』

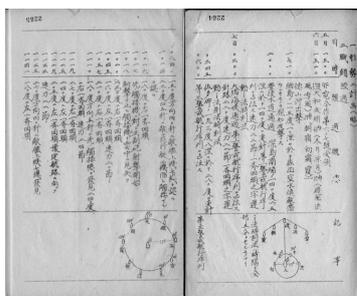


『国会議員双六』
陸奥宗光関係文書



『国会議員双六』
土岐章関係文書

防衛省防衛研究所図書館に関しては、くらがが広島県呉市の海事歴史科学館（別名、大和ミュージアム）へ修学旅行で行ってきたという設定からストーリーを起こし、当研究所の図書館が所蔵する「戦艦大和」関連の資料を紹介した。また、コンテンツに臨場感をもたせるため、実物の10分の1の迫力満点の模型写真も掲載した。さらに、アメリカの国立公文書記録管理局（National Archives and Records Administration: NARA）にリンクを張り、当局に保存されている戦艦大和の写真を掲載した。当コンテンツでは、戦況を刻々と伝える記録や写真をできる限り多く掲載し、資料に語らせるようつとめた。



『軍艦大和戦闘詳報』



『呉海軍工廠で建造の最終工程にある大和』



第58機動部隊の攻撃を受ける大和

ぶん蔵のクイズ部屋 <http://www.bunzo.jp/archives/category/010bunzobeya.html>

現在、「ぶん蔵」では、国立公文書館、国会図書館、宮内庁書陵部、さらに公文書に現れる難読漢字、くずし字、絵画資料などを素材とするクイズを掲載している。各機関には問題作成にあたって全面的な協力をいただいている。これにより、中高生の各機関への興味・関心が高まることを願っている。

以下、公開中の問題をいくつか参考として記載するので、ぜひ挑戦してみてください。（問題1は「国立公文書館クイズ」から、問題2は「国会図書館クイズ」から、問題3は「宮内庁書陵部クイ

ズ」から、問題4は「くずし字クイズ」から、問題5は「国名クイズ」からそれぞれ抜粋。）

- 問題1 国立公文書館（本館）に保管されている公文書を並べるとどれくらいの長さか。
 問題2 明治時代の有名な政治家の子孫が国立国会図書館憲政資料室の創設にかかわり、平成2年まで憲政資料室に勤務したが、それは誰の子孫か。
 問題3 宮内庁書陵部の業務として正しいものは次のうちどれか。
 数百年の伝統ある雅楽の保存 / 陵墓の調査や管理 / 正倉院宝物の管理保存
 問題4 右のことわざは何と読むか。
 問題5 下の4字の国名はなんと読むか。



(正解：1. 34850m 2. 大久保利通の孫 3. 陵墓の調査や管理 4. しらぬがほとけ
 5. ブラジル)

モジョ・カフェ / ぶん蔵歳時記

「モジョ・カフェ」は、時節やその時々話題に即した身近なテーマを取り上げることにより、公文書を若年層に身近に感じてもらい、さらに定期的な更新により、より当サイトの存在感を高める目的から、平成19年6月にスタートした。現在のところ、定期的に更新する軽い読み物としての性格上、モジョ・カフェは出来る限り画像公開している資料を用いて作成している。アジア歴史資料センターが公開する防衛省、外務省などの資料も貴重なソースとなっており、両機関との提携が今後ますます緊密になってくるものと考えられる。



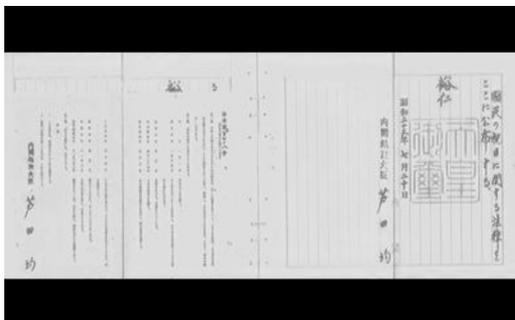
なお、平成20年2月には「モジョ・カフェ 公文書よもやま話」と「ぶん蔵歳時記」にカテゴリーを分割し、特定の日付や様々な祝日、時候に関わるものは「ぶん蔵歳時記」として春夏秋冬に分けて整理した。

「歳時記」では今後継続して各月の国民の祝日などを取り扱い、拡充を進める予定である。

特定の日付にかかわらず幅広いテーマを取り上げる本来の「モジョ・カフェ」は「モジョ・カフェ 公文書よもやま話」に継承されている。また「歳時記」で紹介しきれなかったテーマについて、「モジョ・カフェ 公文書よもやま話」でさらに深く追求するなど、両コンテンツを相互補完的にリンクさせる工夫も行っている。例えば12月の歳時記では日米開戦と宣戦の詔勅を取り扱っている

が、「モジョ・カフェ 公文書よもやま話」では宣戦の詔勅が公表されるまでの過程を詳しく紹介している。

今後は本コンテンツをさらに深い探究への入り口という位置づけとし、さらに大きなテーマでの取り組みとリンクさせていくことが望ましいと考えられる。



国民の祝日に関する法律



大東亜戦争宣戦詔勅草稿綴

(公文書専門官) 塩満正哉

(統括公文書専門官室調査員) 高田雄太、小林繁子、森田健嗣